

先週の回答

対牛弾琴



「仮に、クラシックのコンサート、小沢征爾指揮の東京フィルハーモニーによるシューベルトの『冬の旅』の演奏会に牛の親子がきてたとする」

「牛が、まさか」

「だから仮にと言っとる。名曲の調べに陶醉しきって耳をかたむけている聴衆の中の牛にとつては、いかなる名曲の調べも牛の耳に念仏」

「でしようね。牛は日がな一日牧草を食んでるのが日課ですから」

「そのとおり。牛にとつてはシューベルトより仔牛の腹痛のほうが気になる」

「何が言いたいんですか？」

「どんな素晴らしい演奏でも、牛にとつてはまさに『対牛弾琴』だつてことだ」

「何ですか？」

「中国の戦国時代に、公明儀という人が牛に琴の名曲を聞かせたところ、何の反応も示さなかったのに、仔牛の鳴く声には反応したという故事からきているんだ」

「故事だか六時だか知りませんが、それが一体何なの？」

「つまり、親子の情の強さと、琴の音のように人間にとつては値打ちがあつても、他のものにとつては値打ちがあるとは限らないものがあるという、2つのことが言いたかつたんだ」

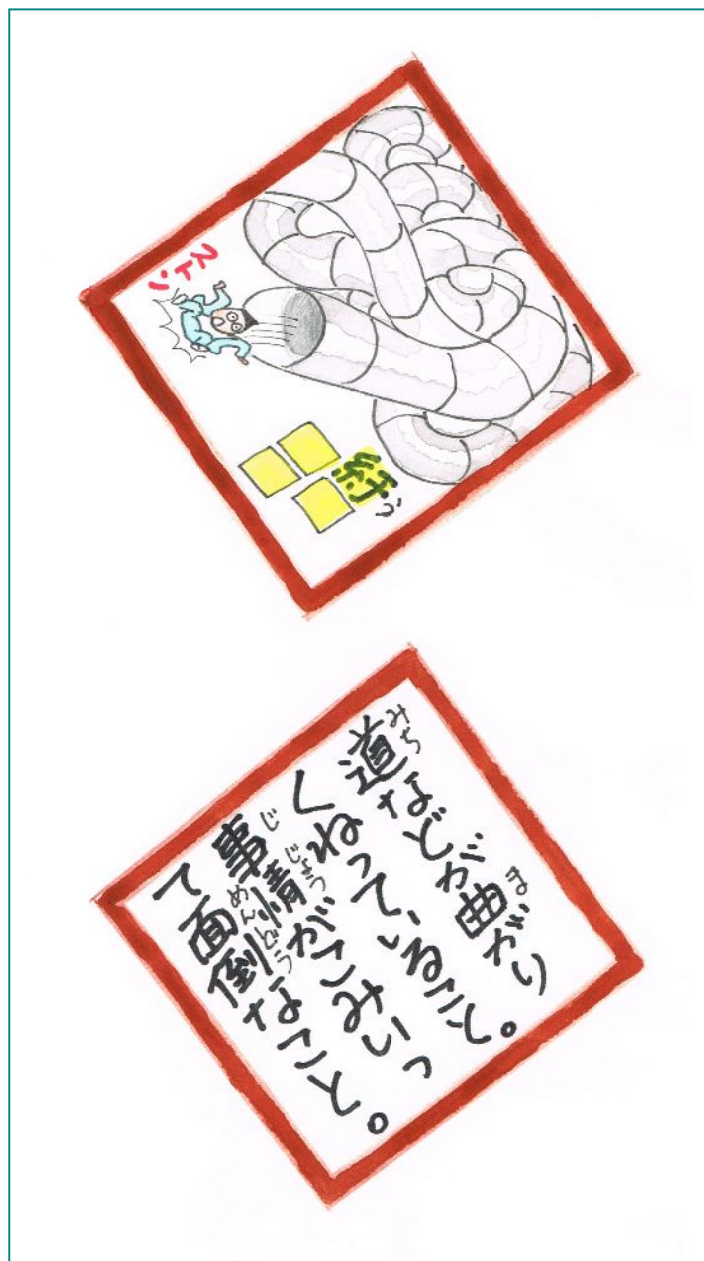
「牛は琴を弾いてやっても、牛にとつては子供の鳴き声以下にしか響かなかつた。つまり、パパがママに小言を言うよ

うに、効果のないムダなことはするなつてこと？」

「まあ、そうだ・・・」



今週の問題



□の中に漢字を埋めて
四字熟語を完成させてください。